

## 河野通明先生退職記念号に寄せて

経済学部長 秋山憲治

河野通明先生は、平成21年3月31日付けをもって本学を定年となり退職されました。先生は、昭和38年大阪大学文学部史学科を卒業された後、同大学大学院文学研究科史学専攻に進学されました。昭和44年3月に同大学院同研究科史学専攻博士後期課程を単位取得修了されておられます。大学院在学中は、文献史学の古代史を主に研究されましたが、「皇国史観」や「戦争責任の問いかけ」をめぐる「戦後歴史学」の厳しい研究姿勢と自分の視点や力量のギャップに苦悩されたようです。結果的には研究を中断され、在学中に取得された中学・高校の社会科教員免許状により、中学校の教員になられました。

その後、生家の寺院の住職補佐の仕事に就かれましたが、研究への思いは断ちがたく、昭和56年42歳のときに研究を再開されます。12年間の研究中断期間が、御自身の研究方向と研究分野・学界を客観的に見直すきっかけになり、先生のその後の研究に大きな飛躍をもたらすことになりました。

先生の研究分野は、「文献史学」「民具からの農業技術史・民具からの経済史」「四季耕作図研究―描かれた農具の真贋見分け、絵画資料の資料批判」の3つの研究分野に分けられます。主要な研究は後の2つの分野で、研究成果は、「日本農耕具史の基礎的研究」として纏められ、平成4年大阪大学から博士（文学）の学位を授与されました。先生は、北海道から九州まで、全国各地の民具調査を実施され、現在においても各地に足を延ばされておられます。多くの人との面談や博物館での民具視察など、神奈川大学から授与された名誉教授の肩書が非常に役に立っていると喜ばれたのが印象的でした。

先生は、平成5年、神奈川大学経済学部へ赴任されました。日本経済史の学部教育と民具資料学の大学院歴史民俗資料学研究科の大学院教育に従事され、多くの教育成果を残されております。特に、ゼミ活動では、誰にでもできる論文書きの基礎講座や夏合宿での甲府盆地と諏訪地方のフィールドワークの実施、大学院では既往の学説をなぞるのではなく農具や絵画資料を題材にしてその意味を問いかける取組など独特の教育活動を実践してこられました。

また、先生の関西弁は、独特の説得力と歯切れの良さがあり、教育効果を高め、会議の結論を導く上でも大いに役立っていたように感じております。

先生は、定年退職後も本学の非常勤講師として、教壇に立たれておられますこととお喜び申し上げますと同時に、今後とも、健康に留意され、ますます元気に御活躍されますことを心より祈念いたしております。